

# 令和5年度 自己評価表

愛媛県立松山北高等学校(本校)

学校番号 22

教育方針	自律・進取・敬愛を重んじ、豊かな人間性と社会性を養うとともに、個性や能力を生かす教育の充実を目指し、平和な国際社会に貢献できる国際感覚豊かな人間を育成する。	重点目標	社会貢献できる人材の育成 ～感謝から自立と共生へ～ 1 自ら知性を磨き、心身を鍛え、自立できる生徒を育てる。 2 感謝と思いやりの心を持ち、共生できる生徒を育てる。
------	--------------------------------------------------------------------------------	------	------------------------------------------------------------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教科指導	学習指導の充実	家庭学習の大切さを生徒に理解させ、課題の与え方を工夫して、1・2年生3時間以上、3年生4時間以上の家庭学習時間を確保させる。 A:3、4時間以上 B:2.5～3、3.5～4時間 C:2～2.5、3～3.5時間 D:1.5～2、2.5～3時間 E:1.5、2.5時間未満	C	6月の調査では、1年生が132分(学年閉鎖期間)、2年生が106分の平均学習時間となった。11月の調査では、1年生が107分、2年生が132分で目標時間に近づきつつある。3年生は11月の調査で平均が237分で概ね目標達成となった。	日々の授業と直結した適切な課題の在り方をさらに研究する。また、学習支援アプリを用いた課題の配信・提出を促進するとともに、デジタル採点機能を使用した考査の分析を活用し、生徒の学力向上につながる学習課題の内容を吟味する。
		全教科について評価の方法を明記した詳細なシラバスを公開し、選択履修や習熟度別指導の充実により、効果的な学習を進める。	B→D	1年生については、今年度から新学習指導要領のもと観点別評価規準を記したシラバスを公開し、効果的な学習を進めている。	今年度の1年生に続き、来年度の2年生についても、観点別評価規準を記したシラバスを公開する。
	総合的な探究の時間	3年間を見通した探究活動を実施し、地域の課題に主体的・協働的に取り組む姿勢と伝え合う力を養わせる。	B→A	1年次にサプライチェーン・イノベーション、2年次に産官学連携をテーマに地域課題解決に向けた探究活動を実施し、3年次に進路実現に向けた取り組みができています。	企業や大学などとの連携を進め、テーマごとに取り組んでいる地位課題解決に向けた探究活動をより深め、3年次に成果を発表する流れを構築する。
進路指導	進路指導の充実	低学年次から進路意識の高揚を図り、国公立大学200名以上、難関国立大学10名以上、難関私立大学40名以上の合格者を目指す。 A:200、10、40名以上 B:190～200、8、35～40名 C:180～189、6、30～34名 D:170～179、5、20～33名 E:169、3、19名以下		昨年度の現役生の実績はBである。今年度は、共通テストを利用しない学校推薦型選抜や総合型選抜の実績は向上した。しかし難関大受験者人数には苦戦している。国公立大学合格を目指して共通テストまで諦めず学習に取り組んだ生徒が、国公立大学個別試験を粘り強く受験する指導により、目標達成を目指す。	増加している総合型選抜や学校推薦型選抜について、積極的に利用する方向へシフトしているが、さらに各大学の選抜方法や内容を研究し、合格を勝ち取れる出願を目指す。1年次から3年次にかけての進路指導の連携と早期からの進路意識の醸成に力を入れる。また、大学入試を突破できる学力を身に付けさせるために各教科との連携を強化する。
		生徒との個別面談を密にし、情報提供に努める。生徒が参加しやすい時期に大学の出張講義や特別講座を実施して学問への興味・関心を高め、主体的に進路を選択できる生徒を育てる。	B	懇談時期だけでなく模試などの機会に面談を実施した。大学説明会や出張講義、土曜特別講座など様々な機会を捉えて学問に対する興味関心を高める取組を実施した。	改まった機会にこだわらず、日常の様々な機会を利用して進路について考えさせる声掛けを行う。また、出張講義や土曜特講について、生徒の実態に合わせて再検討していく必要がある。
		家庭学習や休日の学習指導を充実させるため、放課後や休日の教室開放など、効果的な学習環境を提供する。	C→B	3年生の放課後、土日祝日の学校開放を4月から実施した。2学期からは1・2年生の学校開放についても計画的に実施したが、3年生以外の利用率は低かった。	1・2年のうちから自主学習ができる生徒に育てることを目指して、学校開放等を活用し、長時間机に向かう習慣を身に付けさせ、学習の仕方を理解させる。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	基本的な生活習慣の育成	教職員が共通理解し、共通実践する指導体制を確立し、端正な身だしなみの徹底を図る。	B	年6回身だしなみ指導を実施した。年度当初と比べると再指導となる生徒が減ったが、日頃から生徒自身が自分の身だしなみについてチェックできていないことが多い。	制服を正しく着こなす意識を高め、普段から自分自身の身だしなみをチェックできる指導体制をつくる。校内では名札をつける習慣を徹底させる。
		気持ちのよいあいさつができる生徒100%を目指す。	B	正門でのあいさつ運動(登校指導)を継続して実施しており、あいさつの意識が定着してきた。校内でのあいさつは比較的できている。	心を込めて気持ちのよいあいさつができるよう、コミュニケーション能力を高める指導を目指す。
		心と時間に余裕を持って行動することの意味を理解させ、10分前登校100%を目指す。	B→C	大半の生徒が10分前登校の趣旨をよく理解し、実践しているが、一部の生徒が何度も指導を受けている。	登校時だけでなく、日頃の生活全般を通して時間を守ることの大切さを教職員全員で指導する。8時15分に着席することを目標とする。
特別活動	部活動の充実	県大会ベスト4以上の部を増加させ、県総体出場数290人以上、四国大会出場数15部以上、全国大会出場数10部以上を目指す。 A: 290人、15部、10部以上 B: 275~289人、9~14部、6~9部 C: 260~274人、5~8部、3~5部 D: 245~259人、3~4部、2部 E: 244人、2部以下	A	県総体出場者数は30部で305名が出場した。また県総体ベスト4以内の部は昨年の9部から10部へと減少したが、四国総体には12部96名、全国大会には17部(陸上男女、卓球、ライフル、テニス、柔道、空手、吟詠剣詩舞、スケルトン、フィギュアスケート、郷土研究)41名が出場し、目標を大幅に上回った。	県大会ベスト4以上の部を増加させ、県総体出場数290人以上、四国大会出場数15部以上、全国大会出場数10部以上を目指すとともに、愛顔スポーツ部の部員も積極的に受け入れる。
		部活動加入率90%以上を目指し、学業と部活動の両立を図る。 A:90%以上 B:85~89 C:80~84 D:75~79 E:74%以下	A	部活動加入率は1年生97.5%、2年生94.3%、3年生96.9%の全体で96.2%となり、目標値を大幅に上回った。学業と勉強の両立は63.9%であり、昨年の61.2%からは向上している。	部活動加入率90%以上を確保し、学業と部活動の両立を図る。そのために練習時間や休養日を徹底させ、部内でも学習方法の検討を促す。
		部活動を通して、好ましい人間関係づくりを行い、協調性や社会性を養う。	B→A	90.6%の生徒ができていると答えており、先輩と後輩及び同級生同士の好ましい人間関係が築かれていると思われる。	部活動を通して、好ましい人間関係づくりを行い、協調性や社会性を養う。
特色ある学校づくりの推進		学校行事に積極的に参加できる生徒100%を目指す。	B→A	96.2%の生徒が積極的に参加していると答えており、概ね目標に達していると思われる。	学校行事に積極的に参加できる生徒100%を目指す。
		社会貢献できる生徒を育成するため、奉仕活動やボランティア活動などを積極的に推進する。	A	85.3%の生徒が積極的に推進していると答えており、概ね目標に達していると思われる。愛媛マラソンのボランティア参加生徒数も多く、興居島のボランティアも継続して実施できている。	社会貢献できる生徒を育成するため、奉仕活動やボランティア活動などを積極的に推進する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
保健・安全管理	安心・安全な教育環境の充実	教育相談や特別な支援を必要とする生徒に早期に対応する。また、命を大切にすることを育む。	B	実態調査、健康調査、1年のグループ面談、生徒・保護者・担任からの相談をもとに、生徒の悩みを把握し、解決に向けて対応した。全校生徒対象の講演会(交通安全)を開催した。	生徒実態は年々変化しており、特別な支援を必要とする生徒も増加している。教職員対象の特別支援教育の研修も取り組みたい。
		自転車の整備、ヘルメット着用の徹底、運転マナーの向上などを図り、交通事故ゼロを目指す。	B	ヘルメットの着用率はほぼ100%であるが、自転車の運転マナーなど苦情の電話があった。報告があった交通事故は20件であった。	交通マナーの遵守や交通安全について、全校集会時だけでなくHR活動を活用して身近なところから粘り強く指導していく。自分だけでなく、周囲の人の命も大切にする指導を継続して実施していく。
		防災意識を高めるとともに、学校の施設・設備の安全点検に努め、安全・安心な学校づくりを推進する。	B	避難訓練(搬送および消火訓練)を実施し、防災意識の高揚に努めた。学校の施設・設備の安全点検を学期毎に実施し、安全な環境づくりに努めた。	防災避難訓練の内容をさらに充実させ、防災意識の高揚に努める。施設管理者を中心に、施設・設備の安全点検を確実に実施し、安心・安全な学校づくりを推進する。
		日々の清掃の指導を強化し、ゴミのない好ましい学習環境をつくる。	B	美化委員会を中心に、積極的に掃活動への呼びかけを行い、校内美化に努めた。美化委員1・2年生を中心に放課後を利用して清掃状況のチェックを行い、環境美化を向上させる取組を実施した。	日々の清掃活動では、生徒一人一人の取りかかりを迅速にさせ、時間いっぱい丁寧に活動させる。また、ゴミ分別の徹底とゴミ省力化への意識を高める。校内美化については、学校全体の問題として、教職員にも積極的に関わり指導するよう、啓発していく。
	健康教育の充実	感染予防に対する意識を高め、自他の健康を守り、生き抜く力を養う。	B	保健だよりを通じて生徒・保護者へ健康情報を発信するとともに、保健委員会を中心に校内や教室の消毒や環境検査等、感染予防対策に努めた。	基本的な感染予防対策が定着してきているが、今後もその意識や行動が継続するよう、保健委員会活動等を通じて啓発していく。
現学 職校 教評価	授業公開や 授業評価の充実	生徒による授業評価を年間2回実施して、授業改善を行う。	B	端末を用いて、年間2回の授業評価を実施した。学年間で差はあるものの概ね高い評価であり、ICTも有効に活用されていた。	アンケート結果はデータとして見られるようにしているが、より多くの教員が確認できるよう連絡する。また、今後データを見やすくする工夫をする。
		保護者や中学校など外部に対する授業公開を年間3回以上実施する。	B	中高連絡会に合わせた公開授業のほか、ICT活用授業改善推進事業公開授業では英語と理科で各2回実施し、参加者も増えた。	ICT活用授業改善推進事業公開授業は、今年度が最後になるが、充実した授業公開になるようにしていきたい。
		研究授業や相互授業参観を通して、よく分かる授業づくりに努める。	B	全教科および、ホームルーム活動において、ICTを利用した内容の充実した研究授業を実施していただいた。	研究授業にできるだけ多くの先生方に参観していただけるようにする。また、相互参観授業がスムーズに行えるよう呼び掛ける。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
図書	読書指導の充実	朝読書の取組を徹底し、読書指導を推進することで生徒の自ら学ぶ力を育てる。	B	副担任を中心に朝読書の徹底を実施した。NIE推進指定校として、新聞活用を行う学年もあった。	朝読書の本来の目的から外れないように、また、生徒たちが一日を落ち着いてスタートできるよう、今後も朝読書の徹底をお願いしていく。
		魅力ある図書館を目指し、情報を発信することで利用を促進し、1人あたりの年間貸出冊数2.5冊以上を目指す。	B	館内の特集や、「図書館便り」の発行、ビブリオバトル等の実施をして読書を推進した。年間貸し出し数は2冊を下回る状況であった。	国語科をはじめ、教科との連携をさらに推進していく。また、ホームルーム活動で積極的に図書館を利用してもらい、ビブリオバトル等も実施してもらう。
デジタル	情報セキュリティ管理	データの分類を徹底する。	B→A	重要性分類の定義に沿って、校務系と学習系のデータ分類が適切になされている。	データの取り扱いについて、適切な分類を引き続き継続していく。データの精選とデータ量の削減について、職員全体に指導していきたい。
	教育活動の発信	学校ホームページを充実させ、1日のアクセス数1,000以上を目指す。	B	年間の平均値では目標をクリアしてはいるが、9～11月において、1日の平均アクセス数が1,000を下回ってしまった。昨年度と比べて北高日記のアップが50件ほど減ったことが原因と思われる。	アップの少ない部活動や学年行事などの記事について、タイムリーなアップをすることで、情報発信していきたい。
人権・同和教育	人権・同和教育の充実	人権意識を向上させ、差別や偏見を許さない生徒・教職員100%を目指す。	B	教職員に対しては、職員会議においてミニ研修を実施し、生徒に対しては人権デーを通して人権意識を高めることができた。	次年度も引き続き、人権教育に関する情報を生徒・教員間で共有し、活用していきたい。
		いじめにつながる恐れのある事態の早期発見と徹底対応を図る。	B→A	学校生活アンケートを学期に1回実施することによって、学年間、教員間で情報を共有し、いじめの防止に努めた。	教員間でいじめ対策に差が出ないように、課から随時情報発信をしていきたい。また、教員間の情報共有も引き続き密にしていきたい。
		PTAへの啓発活動を充実させて、保護者との連携を強化する。	B	県・市・町村が主催する人権教育に関する研修会の案内を行い、参加して頂けた。	人権・同和教育関係行事への参加はPTA人権・同和教育専門委員にほぼ限られており、他の保護者への参加呼びかけを積極的に行っていきたい。
事務	経費の節減	職員や生徒に意識啓発等を行うことで、水道水の無駄をなくし、年間使用量を3,000m <sup>3</sup> 以下に節約する。 A:3,000以下 B:3,001～3,100 C:3,101～3,200 D:3,201～3,300 E:3,301以上	A	年間使用量は目標値3000m <sup>3</sup> 以下の目標を達成できた。	引き続き節水に努めるほか、可能な限り電気の使用量等についても経費節減に努める。
		電子データ等を利用し、コピー機の使用カウンター枚数を年間100,000枚以下にする。 A:100,001～105,000 B:105,001～110,000 C:110,001～115,000 D:115,001～120,000 E:120,001以上	B	会議等においてペーパーレス化を推進するとともに、再使用等コピー用紙の再利用により経費節減に努めたものの、コピー機のカウンターは目標値の100,000枚以内を超過した。	より一層のペーパーレス化を推進するとともに校務支援システムの機能を最大限活用し、引き続き経費節減に努める。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。ICTの活用や会議等業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	勤務時間外在校時間(51:59)は、4年連続で減少しており、働き方改革の効果が表れている。	次年度も改革を継続し、働きやすい職場環境の構築を進めていく。
	職場環境の整備	組織的対応を徹底し、学校全体での協力体制を整備する。教職員間のコミュニケーションを促進する。	B	コロナ禍の影響を脱して、本来の教育活動を取り戻すに連れて、各課や教科の相互協力が戻りつつある。また、職員室と会議室に面接ブースを設置し、個別指導や小会議用のスペースを確保した。	各組織の協力体制を充実させることにより、次年度も続く長寿命化工事による生徒への影響を最小限に抑えていく。

※ 評価は5段階で表示している。(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)

※ 昨年度から変化があった項目については、(令和4年度評価→令和5年度評価)で表示している。